高职实用日语专业高年级教材

方政 严红君 主编

高职高级实用日语

浙江大學出版社
ZHEJIANG UNIVERSITY PRESS

高职实用日语专业高年级教材

高职高级实用日语

主　编：方　政　　严红君

编　者：浅井哲夫　吴鉴萍

浙江大學出版社

图书在版编目（CIP）数据

高职高级实用日语/方政，严红君主编；（日）浅井哲夫，吴鉴萍编.—杭州：浙江大学出版社，2005.1

高职实用日语专业高年级教材

ISBN 7-308-03938-2

Ⅰ.大…Ⅱ.①方…②严…③浅…④吴…

Ⅲ.日语—高等学校：技术学校—教材　Ⅳ.H36

中国版本图书馆CIP数据核字（2004）第094778号

责任编辑　杜玲玲

封面设计　张作梅

出版发行　浙江大学出版社

（杭州浙大路38号　邮政编码310027）

（E-mail：zupress@mail.hz.zj.cn）

（网址：http://www.zjupress.com）

排　　版　浙江大学出版社电脑排版中心

印　　刷　浙江大学印刷厂

开　　本　850 mm×1168mm

印　　张　10.5

字　　数　273千

版 印 次　2005年1月第1版　2005年1月第1次印刷

印　　数　0001—4000

书　　号　ISBN 7-308-03938-2/H·292

定　　价　16.50元

前　言

高等职业教育近几年来在我国得到了蓬勃发展，然而，作为高等院校基本建设之一的教材建设，却远远滞后于高等职业教育发展的步伐，以至于许多高职院校的学生缺乏适用的教材，这势必影响高职院校的教育质量，也不利于高职教育的进一步发展。高职日语教育由于在国内尚处于起步阶段，教材更是缺乏。不少院校不得不采用本科的教材，而这些教材除专业性很强的理工科等日语教材外,多为语言文学专业的教材,与高职的培养目标完全不同,不能适用于高职教学。其不适合性主要表现在与实际联系不够紧密，以致学生学习后实践能力不强，而培养学生具有较高的实践能力是高等职业教育的一个重要目标。

高等职业教育的目标是培养具有一定理论水平、有较强实际技能的职业性人才，而就读高职的学生大多学习基础较为薄弱。因此，在编写高职教材时，要改变过于重视知识的传授，过于强调学科体系的严密、完整的做法，而应根据学生身心发展及掌握知识的特点，精选有助于学生终身发展的基础知识和基本技能以

及反映社会、政治、经济、科技发展的需求的内容，即教材要体现社会需要、学科特点和学生身心发展三者有机的统一。

在近几年的教学过程中，我们深深感到现有教材的不适应性。因此，我们于两年前开始着手编写用于高职日语专业三年级的高职高级日语教材。本教材注重多样性和实用性，内容涉及经济、文学、科学等各方面。首先通过学习可以接触各种类型的文章，理解不同的内容，学习不同的书写方式，从而增强实践应用能力。

本教材由本文、注释、单词说明、语法解释、实力培养等部分组成，实力培养部分又分为补充单词的读法、问题探讨、填空、选择、同义近义词语辨析、中译日、日译中，阅读理解等,宗旨是通过本教材的学习能帮助学生提高实践能力。本教材的教授方法要求“听说领先，重在实践”,“精讲多练，讨论互动”。

绍兴越秀外国语职业学院对本书的出版给予了莫大的支持，在此深表感谢。由于编写时间仓促及编者水平有限，不足之处在所难免，敬请读者批评指正。

编　者

二〇〇四年三月

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　　次

第一課　「こんにちは」の用法

本　文……(1)
注　釈……(6)
単語の説明……(6)
語法の解釈……(9)
一、甘い……(9)
二、壁……(10)
三、あくまでも……(11)
四、直す……(11)
実力アップ……(12)

第二課　最後の授業

本　文……(18)
注　釈……(25)
単語の説明……(26)
語法の解釈……(33)
一、～てしょうがない……(33)
二、あがる……(34)
三、～ことか……(35)
四、ふける……(35)
五、ためし……(36)
六、てんでに……(36)
七、胸がつぶれる……(37)
実力アップ……(38)

第三課　地球の安全

本　文……(45)
注　釈……(49)
単語の説明……(49)
語法の解釈……(52)
一、じわじわ……(52)
二、そもそも……(53)
三、果てる……(53)
四、めく……(54)
実力アップ……(54)

第四課　高度経済成長時代

本　文……(61)
注　釈……(63)
単語の説明……(64)
語法の解釈……(67)
一、もはや……(67)
二、のみではなく……(68)
三、あいあい……(68)
四、競う……(69)
実力アップ……(69)

第五課　日本語の特質

本　文……(76)
注　釈……(84)
単語の説明……(86)
語法の解釈……(89)

一、根……(89)
二、あらためて……(91)
三、なかれ……(91)
四、むやみ……(92)
五、～(た)ところ～した/だった……(92)
実力アップ……(93)

第六課　グローバル化と参入障壁

本　文……(100)
注　釈……(103)
単語の説明……(104)
語法の解釈……(107)
一、反面……(107)
二、かつ……(107)
三、拍車をかける……(108)
四、～に伴い……(108)
実力アップ……(109)

第七課　しあわせ願望

本　文……(115)
注　釈……(117)
単語の説明……(118)
語法の解釈……(120)
一、取っ替え引っ替え……(120)
二、負け惜しみ……(121)
三、～末……(121)
実力アップ……(122)

第八課　おけらの水渡り表と裏の世界

本　文……（126）
注　釈……（131）
単語の説明……（131）
語法の解釈……（135）
一、折り……（135）
二、ありさま……（136）
三、かける……（136）
四、こなす……（137）
五、向きになる……（137）
六、よくよく……（138）
実力アップ……（139）

第九課　物質の三態

本　文……（144）
注　釈……（151）
単語の説明……（151）
語法の解釈……（156）
一、～う（よう）とする……（156）
二、～に関わりなく……（157）
三、いきなり……（158）
四、はずだ……（159）
五、正しく……（160）
実力アップ……（160）

第十課　水と石のハーモニーに酔う

本　文……（165）

注　釈……（169）
単語の説明……（170）
語法の解釈……（172）
一、除け……（172）
二、～かと思いきや……（173）
三、つき……（173）
四、～ことから……（174）
五、～にせよ～にせよ……（175）
六、念を燃やす……（176）
実力アップ……（176）

第十一課　故障対策

本　文……（182）
単語の説明……（186）
語法の解釈……（193）
一、～ないと～ない……（193）
二、～にしても～ない……（194）
実力アップ……（195）

第十二課　デユーク

本　文……（200）
注　釈……（205）
単語の説明……（205）
語法の解釈……（211）
一、たち……（211）
二、ひっきりなし……（211）
三、うそのようだ……（212）
四、たんねんに……（212）

実力アップ……（213）

第十三課　宇宙からの帰還

本　文……（219）
注　釈……（225）
単語の説明……（225）
語法の解釈……（228）
一、～にあたって……（228）
二、～に至る……（229）
三、ただし、もっとも……（229）
四、～につき……（230）
五、ともあれ……（231）
六、弱……（231）
実力アップ……（232）

第十四課　自分色

本　文……（239）
注　釈……（241）
単語の説明……（242）
語法の解釈……（245）
一、がかる……（245）
二、とみに……（245）
三、つつ……（245）
四、からこそ……（246）
五、かけがえのない……（247）
六、とおり……（247）
実力アップ……（248）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第十五課　記念写真

本　文……（254）
注　釈……（259）
単語の説明……（259）
語法の解釈……（262）
一、目に付く……（262）
二、～はともかく……（263）
三、息を切らす……（264）
四、損なう……（264）
五、膝につく……（264）
実力アップ……（266）

第十六課　商品と貨幣

本　文……（270）
注　釈……（277）
単語の説明……（277）
語法の解釈……（280）
一、～に際して……（280）
二、づける……（280）
三、ことごとく……（281）
四、～をもって……（281）
実力アップ……（282）

第十七課　言葉と風

本　文……（290）
注　釈……（293）
単語の説明……（293）

語法の解釈……（297）
一、言わずもがな……（297）
二、とて……（297）
三、立て板に水……（298）
四、虚しい……（298）
五、鍵……（300）
実力アップ……（301）

第十八課　経済の循環

本　文……（307）
注　釈……（313）
単語の説明……（314）
語法の解釈……（318）
一、さらなる……（318）
二、ちなみに……（318）
三、天井……（318）
四、フル……（320）
実力アップ……（320）

第一課　「こんにちは」の用法

水谷　修

「こんにちは」ということばがある。我々が毎日の生活の中で、何度となく使うし、一年の間に、あるいは十年の間に、あるいは一生の間には、何千回、何万回と使うであろうことばである。また、他の人が使っているのもそれ以上に数多く耳にしているはずである。このように、「こんにちは」ということばを我々はふだん何気なく使っているが、いったいどんな意味で使っているか、また、いったいどんな場合にこのことばを使っているのか、ということを一度でも反省してみたことがあるだろうか。

例えば、もし外国人に、

「『こんにちは』ということばは、いつ使うんですか。」

という質問をされたら、どうであろうか。おそらく多くの人は、まず最初に、類似のあいさつの表現である、「おはよう(ございます)」あるいは「こんばんは」などのことばと並べてみる。そして、

「『おはよう』というのは朝のあいさつである。『こんにちは』というのは昼間のあいさつである。」

という答えを引き出すであろう。もしその質問者がさらに突っ込んで、

「いったい何時ごろまでが朝なのですか、また、何時ごろからが昼なのですか。」

ということまで聞いてきたとすると、今度は誰もが、一様に、答えを探し出すのに悩むであろう。ある人は、

「午前十時ごろまでが朝だ。」

と答えるであろうし、またある人は、

「十一時、いや、十二時直前までが朝なのだ。」
と考えるであろう。あるいは「おはよう」というあいさつに対して別の知識がある人の場合なら、

「特殊な世界、例えば、マスコミの世界や芸能界などでは、夕方であっても最初に出会った時には、『おはよう』が使われることがある。」
ということを思いつくであろう。

ここまでは、おそらく大部分の人が考えつくことであるし、個人差は多少存在してはいるが、ともかく「おはよう」は朝のあいさつで、「こんにちは」は昼のあいさつだ、という結論が得られるに違いない。

しかし、問題は、これで「おはよう」ということばや「こんにちは」ということばが適切に使えるための説明ができたわけではない、ということである。もう少しよく考えてみて、時間ではなくて、いったいだれに対してこれらのことばが使用されるのか、ということを考えつく人はそう多くないであろう。

「おはよう」と「こんにちは」が使われる対象は明らかに異なっている。自分自身の言語活動を反省してみればはっきり分かるはずである。具体的な人物を思い浮かべてみるとよい。朝起きた時、家族に対して、我々は「おはよう」ということばを使うか、使わないか、外へ出て、近所の人に対してはどうであろうか、職場の同僚に対してはどうであろうか。一方、「こんにちは」ということばを、たとえ時間的に昼間であったとしても、両親や子供に対して使うことがあるだろうか。近所の人に対してはどうであろうか。また職場の同僚に対してはどうであろうかと考えてみると、そこに、時間だけでは律しきれない別のルールが存在することに気づくはずである。

両親に対して、「おはよう」「おはようございます」と、その

表現の型はどちらであっても、そのことばの使用は許される。しかし、両親に対して、例えば仕事に出ていて昼に帰宅した父親に対して、「こんにちは」と言うことはないのである。

もう三十余年前にもなるが、小津安二郎監督の映画に、こんな一場面があった。折り合いが悪くて離婚してしまった夫と妻。その結果、母のもとで育てられている子供。その子供が久しぶりに父親に再会した時、目と目があった瞬間口にしたことば、それが、「こんにちは」ということばであった。幼いその子供が「こんにちは」と言った、その言語行動が、父と子の現在の関係を如実に浮き彫りにした見事な場面であった。通常の生活を営んでいる家族の間では、子供が父親に「こんにちは」を使うことはあり得ない。一つ屋根の下で生活しなくなってしまった、いわば、他人の関係になった時、初めて「こんにちは」の使用の可能性が生まれてくるわけである。

家族以外の人に対しては、「こんにちは」を使うことは、これは、許されるようだ。しかし、それも、だれに対してもよいというわけではない。職場の同僚に対してはどうであろうか。毎日、朝から夕方まで、机を並べて一緒に仕事をしている仲間との場合を思い浮かべてみよう。何かの都合で遅れて、昼少し過ぎに出勤した場合を考えてみる。ドアをあけて部屋に入った時、我々は「こんにちは」というあいさつをするであろうか。もちろん、だれもが「こんにちは」を使わないというわけではない。しかし多くの場合は、「こんにちは」と言うことにためらいを感じるはずである。おそらく、別のことばを探す努力をして、

「やあ、遅れてしまって。」

「今日は、急に用ができてしまったもので。」

などのことばを、あいさつの代わりに用いることが多いであろ

う。もし、そこで「こんにちは」を使うとすれば、それはある表現効果を、つまりそのことばを発する人間の他の人に対する態度を表してしまう可能性がある。職場のその部屋の中に、「こんにちは」と言って入って来る人たちは、最も典型的な場合は、出前のそば屋さんであるとか、あるいは出入りの商人たちなのではないだろうか。

これら、「おはよう」と「こんにちは」というあいさつの関係は、「お休みなさい」と「こんばんは」にも存在するのであるが、少なくとも「おはよう」と「こんにちは」との間に画然とした使い方の差異があるということに、ふだんから気がついている人はそれほど多くはないはずである。

おそらく、この差というものは、日本語だけに限られたものではないであろう。英語の、good morning, good afternoon, good evening あるいは good night といったあいさつを、我々は時間の問題としてだけ理解している。しかし、そこには、だれに対して、どんな場合に使うのが適切であるか、といった使用上の差異が存在しているはずである。中国語の「你好」ということばも、最近よく耳にする。小さな子供でも、「你好」というのがおそらく「こんにちは」に当るようなあいさつのことばだということは知っている。しかし、この「你好」も、どんな場面で使われるかが明確に裏づけされている。日本語の「こんにちは」が「おはよう」に比べて、自分の仲間というよりは外の人に対して使うあいさつであるということに類似した、あるいは、それ以上に形式ばった言い方であって、家族どうしなど非常に身近な中国人どうしが使うあいさつではないようだ。もし我々が「你好」ということばを覚え、いつまでもそのことばを使っているとすれば、相手の中国人とは、いつまでたっても一定の垣根を乗り越えない関係にとどまる可能性がある。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com